

2019 年度 すいた環境サポーター養成講座 第 1 回目

日時：9/5(木)18：30～20：30

場所：千里山コミュニティセンター多目的ホール

◆開講式

本日より環境教育の支援や地域での実践活動を担う、人材養成講座「2019 年度 すいた環境サポーター養成講座」が開講しました。過去の受講者であり、現在はすいた環境サポーターの認定を受けて環境ボランティアとして活躍する運営スタッフが、司会進行を担当しました。

初めに吹田市環境部長中嶋勝宏さんの挨拶がありました。

吹田市の環境サポーターを養成してきた経緯や、これからサポーターになる人たちに期待することなどを、熱く語っていただきました。

私たちも環境行動をさらに広められるよう、講座を通じて学び活動していきたいと、志を新たにしました。

本講の目的と概説、受講方法等の説明などの、オリエンテーションをすませ、実習に入りました。



◆アイスブレイク

・検脈あいさつ

安静時の脈拍を測ってから、2 分間で 2 人以上と知り合いになり、その後もう一度脈拍を測りました。初めて知り合った人と挨拶をすることで親近感が増し、胸がときめいたりします。どれぐらい胸がときめいたかを再び脈拍を測り、受講者に実感してもらうことで、アイスブレイクの効果を体験しました。その効果とは受講者の緊張を解き、場の雰囲気をややかに学びやすくする効果があります。



・後だしじゃんけん（勝ってみる、あいこにする、負けてみる）



「勝つ」ことを意識せずやること、後だしでじゃんけんするのに「負ける」ことの難しさを体験しました。なぜなら、勝つための学習経験があっても負けたり、相手があるがままに受けとめる学習経験が一般的に少ないからです。色々な人々と連携していくときに、自分の「当たり前」になっている価値観に気付き、色々な価値観を大切にすることも学びました。

・以心伝心

グループ全員の両腕の数はグループ人数の2倍となります。その数を最大値として決めます。各人の腕を挙手して、ある数を作ります。但し、グループ全員は目を閉じてもらいますので、だれが挙手しているのか分かりません。だから簡単に講師から言われた数値を作れません。両腕を挙げるべきか、挙げないべきか、又は片腕だけ挙げるかは各人の判断となります。



ここで各受講者はゲームの目的をグループ内で共有していても、それを達成する手段や考え方はそれぞれ違うことを学びます。このことから、外見上、積極的とは思えないことの意義(他を活かすため、自身はあえて消極的になり、他を受け止めることとして、受容性の意義)について、学びました。

その他、様々なアイスブレイキングゲームを通じて、各グループ内にて受講者は打ち解け合い、リラックスした雰囲気となりました。

◆ふりかえり

講習の最後には、ふりかえりをおこないます。一人一人が講習での「気づき」を認識し、それが環境行動にどのように役に立つかなどをグループ内で共有しながら振り返る時間です。

アイスブレイクとは何かを考える個人でのふりかえりと、グループでのふりかえりを行い、終了しました。